

当初予算概要

発行元 湖南省 財政課 2月20日 月曜日

基礎的財政収支黒字化へ

財源配分ハコモノから人材支援へ

湖南省は2月20日、平成29年度当初予算案を公表した。新年度は、地域や市民の魅力を引き出し、まちに好循環をもたらすための地方創生推進交付金活用事業を新たに計上する。財政面では、過去に積極的に実施した投資的事業の公債費が増加したものの、新年度では緊急性のない事業を先送りし、新たな地方債の発行額を抑制したため、基礎的財政収支は5年ぶりの黒字となった。

投資的事業費を抑制

市は歳入歳出総額を前年度比▲3・2%の219億8千万円とし、過去最大となった前年度に次ぐ予算規模となった。平成29年度当初予算編成方針では、少子高齢化による扶

戦略的投資で好循環

総合戦略本格稼働

湖南省総合計画を具体的に動かす新しい地域活力を生み出すための「きらめき・ときめき・元気創生 総合戦略」の推進により、地方創生推進交付金活用事業を新たに予算化した。その財源としては、事業費の2分

まちづくりは 市民主体で

本市は市民の潜在力を引き出すことで、好循環を生み出す仕組みづくりを行う。まず、好循環をもたらすための土台として、既存のまちづくり協議会を通じて市民の新規参入を促し、

となる地方債も発行額が減少し、借金の借入や返済、貯金の取崩しや積立金を除いた収支バランスを示す基礎的財政収支(プライマリバランス)については、借入金額が地方交付税として歳入になる臨時財政対策債を除くと、3億8千1百万円の黒字となった。基礎的財政収支の黒字化は、平成24年度当初予算以来5年ぶりとなる。また、予算規模は年々高止まりの傾向にあり、新年度も子育て支援新制度による施設型給付費や過去の借金の借換により4億円を計上したため、予算規模を押し上げる要因となった。

歳出予算の対前年度比較で大幅な増減があった性質別歳出では、物件費が新規事業である病児保育事業委託1千5百万円、ため池ハザードマップ作成業務委託1千万円、企業家を支援する経費であるローカルベンチャー事業委託1千万円の増額があるが、物流拠点事業化計画検討委託▲2千1百万円や各種計画策定事業の完了により、全体として1億8百万円(▲2・8%)の減額。扶助費は、保育対

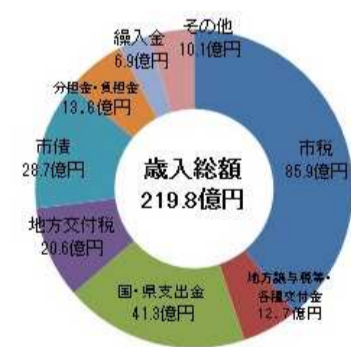
歳出は特定財源を重視

策等促進事業補助金2千4百万円、障がい児通所給付費等1千3百万円、障がい福祉サービス費1千万円の増額はあるが、臨時特別給付費給付事業給付金▲4千1百万円等により、全体としては1億8千万円(▲4・8%)の減額となった。補助費等は、子育て支援新制

る。さらに、子育て支援施設では、新たに病児保育開設のための民間医療機関への助成費や義務教育施設への空調機設置費について中学校に続き各小学校に順次空調機を設置するための設計費を計上した。新年度も、最終的な財源調整は財政調整基金5億円を取り崩しての予算調製と

公債費急上昇

本年度の地方債の元金返済額は前年度比較で約1・5億円の増加となった。平成29年度末の地方債残高は284億6千万円であり、市民一人当たりの負担額は51万円となる。地方債総額のうち約7割は、国から地方交付税としての措置を見込むが、財政上有利な地方債である旧町合併後のまちづくりのために発行が認められた旧合併特例事業債の発行可能額が約9億円(当



初119億円)となった。現在は、新規建設事業への投資はさらに厳しくなった。現在、公共施設等総合管理計画をもとに施設ごとの維持管理計画を順次策定中である。この先の持続可能な財政運営を行うっていくためには、市民全体の利益の観点から地方交付税として措置されることとなっている。国から地方交付税として措置されることとなっている。国から地方交付税として措置されることとなっている。